

ながはま見聞録

Nagahama Hotnews

このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介し、あなたが知っている旬の話題などがあれば、政策デザイン課(☎65-6504)までお知らせください。

3月16日(火) 宿場町の景観を次代に

木之本町木之本の岩根家住宅(重内)主屋が国の登録有形文化財に登録するよう、文部科学大臣に答申されました。

岩根家住宅(重内)主屋は、江戸時代末期に建てられた妻入2階建ての大型町家で、旧木之本宿の景観の名残をとどめる事例として、非常に貴重な建造物です。

所有者の岩根吉孝さんは、「生まれ育った家がその価値を認められ光栄に思います。」と喜びを話しました。



3月18日(木) 長浜に新たなシンボルが誕生

長浜ライオンズクラブから市にガラスのモニュメント「GATE "HYOUTAN"」が寄贈されました。

豊臣秀吉の馬印であり、長浜を象徴する“ひょうたん”をモチーフにしたモニュメント。ひょうたんから覗く長浜城は、まるで訪れる人を歓迎しているよう。

6層のガラスが織りなす光彩は美しく輝き、見る角度によって色を変え、夜間は常夜灯として明かりが灯ります。



3月20日(土)～5月31日(月) 様々な長浜の野鳥の姿が楽しめます

湖北野鳥センターで、市内で撮影された野鳥の写真展が開催されています。

野鳥の写真の腕を競う「ながはま野鳥写真コンテスト」は今年で33回目。県内外から150点の応募があり、会場ではコンテストの入賞作品と応募作品を紹介。同センターは、「長浜市には美しい野鳥が多く生息していることを、写真を通してみなさんに知っていただきたい」と話しています。



3月21日(日) 新たな斎場 新・こもれび苑が竣工

木尾町に新しく建設された斎場の竣工式が執り行われ、関係者およそ80人が参加しました。

新斎場は2階建てで、火葬炉が8台、告別室と収骨室がそれぞれ2室あり、100台以上の駐車スペースを完備しています。

湖北広域行政事務センターの若林管理者は、「心安らかにお見送りできる場であるよう、サービスの向上に職員一丸となって努めてまいります」と挨拶しました。



長浜市公式 SNS

- 長浜の催しや風景など、自慢の一枚をInstagramに投稿してください。長浜市公式Instagramアカウント「# みんなのちょびっく」で紹介し、詳しくは市ホームページをご覧ください。
- 見聞録のイベントは市公式 Facebook ページでもさらに詳しくみることができます。



▲市ホームページ



▲ほっとにゆ〜す

3月29日(月) ロングラン花火大会がグランドフィナーレ

新型コロナウイルスの影響で、昨年12月からのロングラン開催となった「長浜・北びわ湖大花火大会」。医療従事者への感謝を込めた花火や、新成人を祝う花火、卒業・旅立ちを応援する花火など様々なテーマ、そして市内の様々な場所で打ち上げられ、期間中多くの人々が花火を楽しみました。

フィナーレとなったこの日は、豊公園沖から打ち上げられ、満開の桜との競演となりました。



4月3日(土) 渡り初めで竣工祝う

昨年2月からリニューアル工事が進められていた野瀬橋(野瀬町)がこのほど完成しました。昭和38年完成の旧野瀬橋は58年もの時を経て老朽化。待望のリニューアルとなりました。

式典では、地元の押谷寅司さんから三世代夫婦が渡り初めに参加し、住民とともに竣工を祝いました。押谷喜代弘自治会長は、「野瀬町のシンボルが完成して嬉しい。この橋が町民の幸せの橋になってくれれば」と喜びを語りました。



4月3日(土) 書に思いを込めて

慶雲館で伊吹高校書道部による書道機動展示と呼ばれるパフォーマンスが行われました。

多くの人が見守る中行われたパフォーマンスでは、部員が音楽に合わせて「疾風」の文字が書きあげられると、訪れた人たちから大きな拍手がわき起こりました。

生徒の1人は、「新しい一年を駆け抜けていくという意味を込め、疾風という字を選びました」と思いを語ってくれました。



4月4日(日) ダンスや歌声で魅了

長浜文化芸術会館で、湖北の子どもたちが参加する長浜市少年少女合唱団「輝りキッズ」による「2021春のきらりコンサート」が開催されました。

音楽劇「100万回生きたねこ」では、団員たちが物語の世界をダンスや歌声で演出。コミカルな要素も取り入れられ、その楽しい雰囲気客席からは笑い声や手拍子が生まれ、団員が演技切ると大きな拍手が送られました。

